

J.S.バッハ(1685-1750)の《無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ》は、3 曲ずつのソナタとパルティータで構成されており、1720 年の日付がある清書譜が残されているため、おそらくそれ以前、バッハの器楽曲の名品が生まれたケーテン宮廷楽長時代前半の所産と考えられている。本日は鈴木大介によるギター版編曲でお届けする。

J.S.バッハの作品(鈴木大介編)

ソナタ イ短調(無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第 2 番)

全 3 曲のソナタの各楽章は舞曲名を持たず、いずれも 4 楽章構成で「緩／急／緩／急」の教会ソナタの形式をとり、第 2 楽章にはバッハの真骨頂ともいべきフーガが置かれている。ソナタ第 2 番の第 1 楽章グラヴェは、荘重な旋律が流れるように歌い、フーガを迎える序奏の役割を果たす。第 2 楽章フーガでは三重音や四重音が用いられ、ソナタ第 1 番のフーガに比べてより緻密で洗練された音楽になっている。第 3 楽章アンダンテは、重音を縫うように進む旋律の美しさに息を呑む。第 4 楽章アレグロは、16 分音符の速いソッパセージから繰り出される旋律がエコーのような響きを創り出す。

パルティータ ロ短調(無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 1 番)

パルティータ第 1 番は 4 つの舞曲に「ドゥブル」という変奏曲が付随する。また本曲では、ジグが来るべき最終楽章にブーレ(ボレア)が置かれている。格調高い第 1 楽章はアルマンドとそのドゥブルに始まり、続く第 2 楽章はフランス語の「クーリール(走る)」に由来する舞曲クーラント(コレンテ)とそのドゥブル。第 3 楽章は 16 世紀スペイン発祥とされる荘重なサラバンドとそのドゥブル。第 4 楽章には 17 世紀フランス・オーヴェルニュ地方発祥の快速なブーレが来て、最後はそのドゥブルで曲を閉じる。

ソナタ ハ長調(無伴奏ヴァイオリンのためのソナタ 第 3 番)

ソナタ第 3 番のフーガの序奏となる第 1 楽章アダージョは、付点リズムによる神秘的な重音でゆっくりと始まる。第 2 楽章フーガの主題には、聖霊降臨祭の古いコラール《来たれ、聖霊よ、主なる神よ》の旋律が使われている。この 354 小節にも及ぶ長大なフーガは、バッハが遺したフーガのなかでも最長。第 3 楽章ラルゴは短い、優雅な旋律を歌う。第 4 楽章は、軽快に駆けまわるアレグロ・アッサイ。

パルティータ ホ長調(無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第 3 番)

パルティータ第 3 番には、軽快で明るい舞曲が並ぶ。第 1 楽章プレリュードは華やかに始まり、第 2 楽章ルールでは抒情的な旋律が美しく歌う。第 3 楽章ガヴォット・アン・ロンドーは単独で奏される機会も多い。第 4 楽章の親しみやすい第 1 メヌエットに続いて、第 5 楽章の柔らかな雰囲気第 2 メヌエットが奏される。第 6 楽章は軽やかなブーレ、第 7 楽章はさらに快速なテンポのジグとなり、組曲全体を締めくくる。